

三社覚書締結の調印式について

2016年4月19日(火)、JPタワー(東京都千代田区)にて、株式会社かんぽ生命保険、ベトナム郵便会社ならびに当社による、三社の協力関係に関する覚書締結の調印式を開催しました。

同調印式には、株式会社かんぽ生命保険から石井雅実取締役兼代表執行役社長、ベトナム郵便会社からドー・ゴック・ビン会長とファム・アン・トゥアン社長、当社から渡邊光一郎代表取締役社長が出席し、覚書の調印を行いました。



また、ご来賓として、日本郵政株式会社 長門正貢取締役兼代表執行役社長、日本郵便株式会社 高橋亨代表取締役社長兼執行役員社長も同調印式にご出席され、ご挨拶をいただきました。



【調印式でのご挨拶】(概要)※調印式でのご挨拶順に掲載

■株式会社かんぽ生命保険 石井雅実取締役兼代表執行役社長



シンプルで小口な商品を全国の郵便局で販売する簡易生命保険は、1916年の事業開始以来、日本国民の生活の安定に貢献してきました。21世紀においても、郵便局における生命保険販売は、全国のお客さまの生活を支える重要な役割を果たしています。

今回の覚書の締結は、私どもの経験を、ベトナム国及びベトナム郵便の発展に役立てたいという思いを込めたものです。ベトナム郵便での成功が、他のアジアの国々においても成功モデルとなることを願っています。

■ベトナム郵便会社 ドー・ゴック・ビン会長



2016年1月18日に、ベトナム郵便と第一生命ベトナムは、生命保険商品に係る15年間の独占販売契約を締結しました。2030年まで、第一生命ベトナムがベトナム郵便のネットワークを活用した生命保険販売における唯一のパートナーとなります。

ベトナム郵便が持つ幅広いネットワーク、第一生命グループの生命保険事業に関するノウハウ、かんぽ生命の郵便局を通じた生命保険販売ノウハウなど、三社の強みを活かすことで、三社のさらなる発展につながることを確信しています。そして、三社の長期にわたる持続的な協力関係により、日越両国のさらなる協力関係の発展にも期待しています。

■第一生命保険株式会社 渡邊光一郎代表取締役社長



今回の三社の協力関係は、日越両国のパートナーシップの大きな流れの中にあると考えています。

今回の覚書締結により、海外分野におけるかんぽ生命とのパートナーシップをより強固なものとし、かんぽ生命と当社が培ってきた保険販売の経験やノウハウを持ち寄り、ベトナム郵便による第一生命ベトナムの保険商品の販売を支援していきます。そして、三社のさらなる成長とベトナムの生命保険市場、社会・経済の発展に貢献していきたいと思えます。このパートナーシップが、日越両国のパートナーシップをより強固なものにすることを確信しています。

■ 日本郵政株式会社 長門正貢取締役兼代表執行役社長



仕事をする上では、誰と仕事をするかが非常に重要だと考えています。今回の協定では二社の素晴らしいパートナーと関係を結ぶことができ、非常に嬉しく思います。

一社目はベトナム郵便です。25年前にハノイを訪れた際、ベトナムは非常に知的でエネルギーのある国であると驚きました。今後、アジアのリーダーとなるであろうベトナムの、リーダー企業であるベトナム郵便と一緒に仕事ができ、嬉しく思います。

二社目は第一生命です。第一生命からは、感銘を受けた点がたくさんあります。例えば、「最大たるより最良たれ」という企業姿勢や、大災害発生時にも真っ先にお客さまに奉仕する、本当の意味での「顧客第一主義」、米国生保会社の買収に見られるように、急がずに正しい

パートナーを選定している点です。

今回の三社覚書の締結は、始まりに過ぎません。今後、さらに多岐にわたる取組みを一緒に実施していきたいと考えています。

■ 日本郵便株式会社 高橋亨代表取締役社長兼執行役員社長



日本郵便は、2015年6月、ベトナム郵便と「郵便サービスの改善に係るコンサルティング契約」を交わし、約10か月間に渡り、ベトナム郵便とともに、郵便サービスの品質改善に取り組んできました。

ベトナム郵便の皆さまは、非常に熱心に私どもの提案に耳を傾けてくださり、積極的にご協力いただきました。ベトナム郵便の社員お一人お一人が、郵便事業の役割や社会的意義を真に理解され、自負を持って取り組まれている証左であり、その熱意に感服しています。

今回の三社覚書の締結により、同じ日本郵政グループの中から、ベトナム郵便との新たな協力関係が生まれたことを、大変喜ばしく心強く思います。